
らき すた ~恋愛×友情~

。桜。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

らき すた〜恋愛×友情〜

【Nコード】

N8080H

【作者名】

。桜。

【あらすじ】

春。俺は高校生になった。そして、高校である人たちと出会って・
・！？

第1話幼なじみですとー！！？

春。

心地いい風が頬を撫でる。

俺の名前は槇原潤。

今日から陸桜学園の高校生だ。

まあ、頑張らないとな。

入学式も終わり、クラス発表見た。俺は、1年B組だった。

（1年B組と・・・。）

（ここか・・・。）

教室からはにぎやかな声が聞こえてくる。

これなら、一応やっていけそうだ。

（席は……真ん中の方か……）

とりあえず俺は自分の席に着いた。

すると。

「あれ？君って……榎原君じゃないか」

そういつて俺に話しかけてきたのは、これでもか、というくらい長い青い髪をした女の子だった。

でも……。

「……お前……高校生……？」

「はいっ、そうですっ！これでも高校生ですっ！」

にしては背も小さい。小学生にも見える。

「んっ？なんか言っただ？」

普通に言っているように見えるが、怒っていることがわかる。

「……なんでもない。」

「っていつか、何で俺の名前知ってんの！？」

「え？忘れた？うちら、幼なじみでしょ？」

は？

幼なじみ？ えーーーーーっ!？

「何もそんなに驚かなくても・・・。」

「ほほほ、本当に？」

「うん」

「あ、でも」

「なんだよ？」

「あたしの他に槇原君の幼なじみいるよ」

なぬ!？

俺、そんなに幼なじみいたか!？

「あははっ」

「あははっ、じゃなくてさっ!」

「ん?何?」

「名前は?」

「えっ、名前も忘れてたの?あたしは泉こなただよ!」

泉こなた……。確かに聞き覚えがあるような……。

ん……でも思い出せない。

そう考えているうちに、HRの時間になっていた。

「じゃ!またあとで!」

そういつて泉さんは自分の席に戻っていった。

なんか、にぎやかになりそうな気がする。まあ、一人よりはマシか・
・。

そんなこんなで俺はHRを聞き始めた。

あつという間に昼休み。

「さて、食堂にでも・・・」

「槇原くん!!」

「あれ？泉さん？・・・とお二人方・・・」

「えつとこつちの子が、柊つかさちゃん。んでこつちは、柊かがみちゃん。」

「あんたにちゃん付けされると気持ち悪いわよ」

「あつ、私は、柊かがみ。双子の姉よ。よろしく。」

柊かがみさんはきれいな人であった。見た目からして、きっとしっかり者なんだろう。

「こちらこそ、よろしく。柊さん。」

「かがみでいいわよ。あ、あと私とつかさも槇原君の幼なじみよ。」

何ですとーーーー!??

「わっ私は慘つかさ。つかさでいいよ！よろしく。」

「ようよろしく……」

つかさんは、なんというかおっとりした性格なんだろうな。

「あ！榎原君！あたしのことはこなたでいいよ」

「は、はあ……」

いや、俺にはこんなにも幼なじみがいたのか……。

そう実感した、潤だった。

第1話幼なじみですとー！？（後書き）

どうでしたか？まだ、未熟者なのでわかりずらいところもあると思います。感想やアドバイスをいただけるとうれしいです！

いやいや・・・かがみさんやつかささんが泊まるのはわかるんだけど、

なぜ・・・・・・・・・・・・俺!!???

「とくにかくくく!明日は泊まる!!いいよね!」

「はい・・・・・・・・(泣)」

俺はこなたさんの気迫に負け、明日はこなたさんの家に泊まることになった。

帰り道。

「ああ・・・俺はいつたいどうなるんだ・・・。」

悩んでもしょうがない・・・。

とりあえず、今日はゆっくりしよう・・・。

チュンチュンっ・・・

ジリリリリリリリリリッ

「ん~~~~」

バシッ

「ぐっ……」

「って！今何時だあつ！？」

俺は急いで時計を見る。

しるされていた時間は……。

< 8 : 4 5 >

ややややつ……ヤバイッツ！！！！

これはまずい。まずすぎるっつ！！！！

まずい……。HRは9：00からだ。ならまだ間に合っつ！！

支度を猛スピードですませた俺は、家を飛び出した。

「はあ……。はあ……」

と、その時。

ドンッ！

「あ、すみませんってかがみさんとかささん！？」

「え！？あ、榎原君！」

「お、お姉ちゃんっ！まってよ」

「つかさ！だから早く起きようっていったのに！」

あ。ということはかがみさんたちも遅刻しそうになっているのか・
・

まあ、仲間がいてよかった。

「そんなことより、早く行かないと！！」

「そうね！つかさ！早く！！」

「まって」

「ゼエ、ハア・・・」

俺たちはなんとか間に合ったようで。

「あれ？何？三人揃って遅刻？」

教室についたとたん、こなたさんが話しかけてきた。

「めずらしいわね？あんたが遅刻してないなんて。」

「むっ」

「おい、いつまでも話してないでさっさと席付け！」

社会担当の黒井先生が注意をした。

俺は席につき、ふと思う。

（そういえば、今日こなたさんの家に泊まるんだっとな……。ま、
ほぼ

強制的にだけだな。）

そんなことを考えながら、俺は教科書をひらいた。

そして昼休み。

「おい！榎原くん！！」

「こなたさん。何？」

「今日あたしの家泊まるでしょ？」

「う、うん・・・まあ・・・」(強制的にだけど)

「じゃ、いちど、家に帰って、荷物とってきたらうちに来てね！」

「はあ・・・」

「じゃ～ね～」

さて・・・昼飯でも食いにいくか・・・。

俺はブルーな気持ちで食堂へと向かった。

放課後。

「じゃ、荷物とってきたらうちに集合!」

と、いうわけで。

家についた俺は泊まりにいく準備をいていた。

「え」と、これとこれ・・・」

「よし。これでいいな。」

しかし、こなたさんはなぜいきなり、俺に泊まれと言ったのだろうか。

かがみさんたちだけでもう十分だと思うが・・・。

「まあ、いいか。そろそろ行こう。」

しかし、潤はこのあと知る。

「これはすべてこなたによる「作戦」なのだ、ということ。」

第2話お泊まり！？（後書き）

どうでしたか？今回はちょっと短めにしました。
アドバイスや感想、ぜひぜひお待ちしております！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8080h/>

らき すた～恋愛×友情～

2010年10月14日16時39分発行